

## 最近の調剤医療費（電算処理分）の動向

### 令和5年度4～5月号

#### ○ 4月の概要

(1) 令和5年度4月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は6,561億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+1.4%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は9,354円（伸び率▲0.3%）であった。（→P.1,2）

調剤医療費の内訳は、技術料が1,802億円（伸び率+2.5%）、薬剤料が4,745億円（伸び率+1.0%）、薬剤料のうち、後発医薬品が935億円（伸び率+2.3%）であった。（→P.4,5）

(2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,315円（伸び率▲2.0%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、1種類当たり投薬日数、1種類1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.82種類（伸び率+2.1%）、28.0日（伸び率▲2.7%）、67円（伸び率▲1.3%）であった。（→P.8,9）

(3) 内服薬の薬剤料3,728億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）▲11億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の704億円（伸び幅+14億円）で、伸び幅が最も高かったのは42 腫瘍用薬の+36億円（総額500億円）であった。（→P.13～19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	3,728億円 (▲11億円)	39 その他の代謝性 医薬品(704億円)	21 循環器官用薬 (590億円)	11 中枢神経系用薬 (520億円)
0歳以上 5歳未満	22.1億円 (+3.2億円)	44 アレルギー用薬 (7.8億円)	22 呼吸器官用薬 (4.5億円)	61 抗生物質製剤 (3.2億円)
5歳以上 15歳未満	87.8億円 (+4.0億円)	44 アレルギー用薬 (32.5億円)	11 中枢神経系用薬 (25.6億円)	39 その他の代謝性 医薬品(6.9億円)
15歳以上 65歳未満	1,376億円 (+19億円)	39 その他の代謝性 医薬品(265億円)	11 中枢神経系用薬 (260億円)	21 循環器官用薬 (181億円)
65歳以上 75歳未満	831億円 (▲49億円)	39 その他の代謝性 医薬品(187億円)	21 循環器官用薬 (149億円)	42 腫瘍用薬 (148億円)
75歳以上	1,411億円 (+12億円)	21 循環器官用薬 (257億円)	39 その他の代謝性 医薬品(244億円)	42 腫瘍用薬 (187億円)

(4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では9,354円（伸び率▲0.3%）で、最も高かったのは高知県（11,262円（伸び率+1.3%））、最も低かったのは佐賀県（7,969円（伸び率+0.0%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは秋田県（伸び率+1.9%）、最も低かったのは宮崎県（伸び率▲1.5%）であった。（→P.31～32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.42）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） <sup>注）</sup>	84.3 %	+2.0 %
薬剤料ベース	19.7 %	+0.2 %
後発品調剤率	80.2 %	+1.5 %
（参考）数量ベース（旧指標）	59.8 %	+2.0 %

注）〔後発医薬品の数量〕 / （〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.43~44）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+2.3 %	+20.7 % (0 歳以上 5 歳未満)	▲5.9 % (70 歳以上 75 歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	19.7 %	30.2 % (100 歳以上 )	11.4 % (10 歳以上 15 歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	84.3 %	88.9 % (100 歳以上 )	78.8 % (10 歳以上 15 歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.49~53）

年齢区分	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	801 億円 (+26 億円)	21 循環器官用薬 (236 億円)	11 中枢神経系用薬 (139 億円)	23 消化器官用薬 (98 億円)
0 歳以上 5 歳未満	9.0 億円 (+2.1 億円)	44 アレルギー用薬 (4.6 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.9 億円)	61 抗生物質製剤 (0.5 億円)
5 歳以上 15 歳未満	17.1 億円 (+1.2 億円)	44 アレルギー用薬 (10.7 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.1 億円)	11 中枢神経系用薬 (1.7 億円)
15 歳以上 65 歳未満	282 億円 (+16 億円)	21 循環器官用薬 (66 億円)	11 中枢神経系用薬 (64 億円)	44 アレルギー用薬 (39 億円)
65 歳以上 75 歳未満	173 億円 (▲7 億円)	21 循環器官用薬 (64 億円)	23 消化器官用薬 (22 億円)	11 中枢神経系用薬 (21 億円)
75 歳以上	320 億円 (+14 億円)	21 循環器官用薬 (106 億円)	11 中枢神経系用薬 (52 億円)	23 消化器官用薬 (49 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.58~63）

	全国	最高	最低
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,334 円	1,699 円(北海道)	1,121 円(佐賀県)
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+0.5%	+2.8 % (島根県)	▲1.4 % (新潟県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	84.3 %	90.8 % (沖縄県)	80.6 % (徳島県)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	19.7 %	22.9 % (鹿児島県)	17.3 % (京都府)
後発医薬品調剤率	80.2 %	85.5 % (沖縄県)	75.9 % (東京都)
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	59.8 %	67.4 % (沖縄県)	56.1 % (東京都)

○ 5月の概要

(1) 令和5年度5月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は6,513億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+7.8%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は9,001円（伸び率▲2.1%）であった。（→P.1,2）

調剤医療費の内訳は、技術料が1,827億円（伸び率+10.3%）、薬剤料が4,673億円（伸び率+6.9%）、薬剤料のうち、後発医薬品が911億円（伸び率+8.8%）であった。（→P.4,5）

(2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,085円（伸び率▲3.6%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、1種類当たり投薬日数、1種類1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.80種類（伸び率+2.1%）、26.5日（伸び率▲4.5%）、68円（伸び率▲1.1%）であった。（→P.8,9）

(3) 内服薬の薬剤料3,679億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）+216億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の690億円（伸び幅+44億円）で、伸び幅が最も高かったのは42 腫瘍用薬の+58億円（総額500億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	3,679億円 (+216億円)	39 その他の代謝性 医薬品(690億円)	21 循環器官用薬 (572億円)	11 中枢神経系用薬 (513億円)
0歳以上 5歳未満	23.6億円 (+5.6億円)	44 アレルギー用薬 (7.6億円)	22 呼吸器官用薬 (5.2億円)	61 抗生物質製剤 (4.0億円)
5歳以上 15歳未満	87.4億円 (+14.0億円)	44 アレルギー用薬 (29.5億円)	11 中枢神経系用薬 (25.9億円)	39 その他の代謝性 医薬品(6.4億円)
15歳以上 65歳未満	1,367億円 (+107億円)	39 その他の代謝性 医薬品(261億円)	11 中枢神経系用薬 (257億円)	21 循環器官用薬 (174億円)
65歳以上 75歳未満	811億円 (+0億円)	39 その他の代謝性 医薬品(182億円)	42 腫瘍用薬 (146億円)	21 循環器官用薬 (143億円)
75歳以上	1,391億円 (+89億円)	21 循環器官用薬 (251億円)	39 その他の代謝性 医薬品(241億円)	42 腫瘍用薬 (187億円)

(4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では9,001円（伸び率▲2.1%）で、最も高かったのは高知県（10,909円（伸び率▲3.5%））、最も低かったのは佐賀県（7,768円（伸び率▲0.7%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは富山県（伸び率▲0.3%）、最も低かったのは高知県（伸び率▲3.5%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.42）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） <sup>注）</sup>	84.5 %	+1.9 %
薬剤料ベース	19.5 %	+0.3 %
後発品調剤率	80.2 %	+1.9 %
（参考）数量ベース（旧指標）	59.7 %	+2.0 %

注）〔後発医薬品の数量〕 / （〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.43~44）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+8.8 %	+33.1 % (0歳以上 5歳未満)	▲1.0 % (70歳以上 75歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	19.5 %	29.9 % (100歳以上)	11.4 % (10歳以上 15歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	84.5 %	88.8 % (100歳以上)	80.0 % (10歳以上 15歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.49~53）

年齢区分	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	778 億円 (+71 億円)	21 循環器官用薬 (229 億円)	11 中枢神経系用薬 (137 億円)	23 消化器官用薬 (96 億円)
0歳以上 5歳未満	9.5 億円 (+3.0 億円)	44 アレルギー用薬 (4.6 億円)	22 呼吸器官用薬 (3.2 億円)	61 抗生物質製剤 (0.6 億円)
5歳以上 15歳未満	16.4 億円 (+3.3 億円)	44 アレルギー用薬 (9.1 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.5 億円)	11 中枢神経系用薬 (1.7 億円)
15歳以上 65歳未満	273 億円 (+33 億円)	21 循環器官用薬 (64 億円)	11 中枢神経系用薬 (64 億円)	44 アレルギー用薬 (30 億円)
65歳以上 75歳未満	167 億円 (+2 億円)	21 循環器官用薬 (62 億円)	23 消化器官用薬 (21 億円)	11 中枢神経系用薬 (21 億円)
75歳以上	313 億円 (+30 億円)	21 循環器官用薬 (104 億円)	11 中枢神経系用薬 (51 億円)	23 消化器官用薬 (48 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.58~63）

	全国	最高	最低
処方箋 1枚当たり後発医薬品薬剤料	1,259 円	1,614 円(北海道)	1,063 円(佐賀県)
処方箋 1枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	▲1.3%	+2.4 % (香川県)	▲2.7 % (岩手県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	84.5 %	90.8 % (沖縄県)	80.6 % (徳島県)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	19.5 %	22.6 % (鹿児島県)	17.1 % (京都府)
後発医薬品調剤率	80.2 %	85.5 % (沖縄県)	76.1 % (東京都)
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	59.7 %	67.2 % (沖縄県)	56.0 % (東京都)

## 〔利用上の留意点〕

### 分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和5年度4月及び5月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。